Kaoru Hashimoto 橋本　薫 弁護士

大阪船場法律事務所　新64期　公認会計士

大阪府堺市の生まれです。平成９年から９年半、公認会計士として監査法人で勤めた後、弁護士になりました。

子どものころから会計士という存在を知っていたわけではありません。高校進学の際、公立で行きたい学校もあったのですが、内申点が足りない可能性がありました。それなら大学に行くのはあきらめて手に職をつけて就職しようと考えたことから、大阪市内にある天王寺商業高校に進学しました。

当時、商業高校に情報システム科というのができて興味もありました。情報システム科ではプログラミングのコボル言語を習って、プログラミングの基礎などを学びました。何よりも、高校で私が一番学習したのは簿記です。

簿記の授業は３年間あります。決算書が作成されていく過程を学んで、貸借対照表や損益計算書などが作れるようになります。ちゃんと処理できていれば、最後には必ずつじつまが合うところが自分にとって非常におもしろかったのです。最初に簿記の初歩を教えてくれた先生も、簿記が何かを知らない生徒に対してすごくわかりやすい説明をしてくれて、簿記の魅力に引き込んでくれたことも簿記を好きになった理由かもしれません。

高校の３年間、他の教科はともかく、簿記だけは本当に一生懸命に勉強したと思います。

会計士を目指そうと思ったのは高校２年生のとき。最初は、税理士を目指そうと考えていました。そうしたところ、優秀な友人が、簿記の知識が生かせる職業は税理士のほかにも公認会計士があるよと教えてくれました。それまで私の中で会計士に対するイメージはまったくありませんでした。初任給がいいと聞き、「初任給がいいなら会計士がいい」と単純に思いましたし、会計士は税理士もできると知ったので、それならば最初から会計士を目指そうと思い、会計専門学校に進学することにしました。

高校卒業の２か月前から専門学校に通い始め、２年間、講義と自習にあけくれ、毎日必死に勉強しました。会計士の試験は、当時、１次試験で一般教養、２次試験は択一と論文、３次試験は実務を３年経験した後に受けるというものでした。専門学校１年のときに１次試験に合格し、２年生で２次試験の択一まで受かりました。２次試験の論文は３回目で受かりました。

２回目で受かるつもりで準備していたので２度目の不合格で悔しい思いをしました。一緒に勉強していた先輩たちが合格したので、次こそは、私も合格してみせると強く決心しました。また、高校の先輩も同じ専門学校に通い最年少合格していたこともあってモチベーションを保つことができました。また、先生からも勉強方法さえ間違えなければ必ず合格できると言われていたので、この言葉を信じてがんばりました。

合格したときにはほっとしましたが、就職活動には出遅れました。通常は試験の結果待ちの間に就職活動をして大手監査法人から内定をもらうのですが、私は合格した年に就職活動をしていませんでした。活動を始めた時期が遅かったことと、私が高卒ということで採用担当者に見向きもされなかったりして苦戦しましたが、専門学校の先輩のつてを頼って面接をしてもらい、準大手だったセンチュリー監査法人（後の新日本有限責任監査法人）に就職しました。

＊　＊　＊　＊

監査法人では大阪事務所に配属され、大阪に本社がある上場会社や商法上の大会社の監査業務等を担当しました。クライアントは全て企業です。同僚と数人でチームを組んで仕事をするのですが、私の担当は比較的規模が小さな会社でした。同じ士業でも弁護士と違うのは、会計士個人の名前が書面上にあまりでないことでしょうか。弁護士の場合、１年目から、対外的な書面の全てに自分の名前が出るのに対し、監査法人で勤務する会計士の場合には、監査報告書などの書類へのサインは、パートナーが行うため、自分の名前が出ません。

仕事は忙しかったですが、新規のクライアントがいない限り、だいたい年間のスケジュールが決まっていますし、幸い、決算期がばらばらの企業を担当していたので忙しくてもそれなりに対処できました。弁護士の場合、スケジュールが読めないという点で、監査法人勤務時代よ

りも忙しく感じます。

監査法人での仕事は、やりがいのある仕事でした。企業の担当者から、会計処理する前、もっというと、会社が新たな行動を起こす以前に、事前に相談をしていただけることが、非常におもしろかったです。私なりにアドバイスをさせていただいたり、そのアドバイスを参考に企業の側で良い方向に動いていただけたりしたときは嬉しかったです。

しかし、監査法人に入って2、3年目のころだったでしょうか。企業の担当者からいろいろな相談を受けていましたが、自分自身の法律知識が皆無だったこともあり、本当に適切なアドバイスができているのだろうかと不安に感じるようになっていて、どこかで法律を本格的に勉強しないといけないなと強く思っていました。

そのうち法科大学院ができるという新聞記事を目にしました。良い機会なので法律を学ぼうと思い、法科大学院に行くために仕事をしながら近畿大学を通信で4年かけて卒業しました。

＊　＊　＊　＊

司法試験はとても難しいイメージがありましたが、法科大学院に行ってきっちり勉強すれば旧司法試験よりは合格しやすいものだろうと漠然と思っていました。通信制の大学を卒業してからも引き継ぎなどで約2年間監査法人で勤めた後、平成19年4月に関西大学法科大学院の未修コースに入学しました。

入学当初は、新司法試験の合格率が悪いとか、弁護士の就職問題は表面化していませんでした。しかし、監査法人を退職して法科大学院に入学したので、何が何でも新司法試験に受からねば、という思いで勉強しました。

法科大学院での法律の勉強は、本当に刺激的でおもしろかったと思います。実務家や学者の様々な先生方の授業を受けて勉強ができることが本当に幸せでした。

幸い、卒業して最初の司法試験で合格することができました。その後、大学院の紹介で修習前の事前研修としてOBの事務所に訪問する機会をいただきました。そのご縁があって、現在勤務させていただいている事務所に内定をいただき、現在に至ります。

＊　＊　＊　＊

弁護士になって3年目になりました。とにかく毎日、必死で走ってきたというのが実感です。

監査法人と比べると、弁護士への依頼者、相談者はもちろん企業だけではなく、個人のお客さんもいますし、事件も分野も本当に様々。接する人の人数や規模がかなり広範囲になりました。多くの方々と出会えるというのは本当にやりがいがあることですが、その分、その方々の立場や状況によっていろいろと気を配らないといけませんので大変ですね。しかしその分、様々な課題を一つ一つクリアしたときの喜びはひとしおです。

現在は、交通事故事件や顧問先企業の相談業務から、倒産関係や親族相続に至るまでありとあらゆる仕事をしています。顧問先の企業などからは、法律問題に加えて会計や税務に関する相談もあります。弁護士としての経験は浅いですが、一生懸命対応させてもらっています。

これからは自分の経験を少しでも生かすために、租税についてもっと勉強したいと思っています。税務上のトラブルにならないように、問題になる前の段階から税務プランなどを一緒に考えていけるような仕事をしていきたいですね。そうやって弁護士業務に軸足を置きながら会計や税理の視点をもって複合的にアドバイスできればと思います。

また、知識だけではなくて、問題へのアプローチの仕方や論理的思考力などを今から勉強して、様々な問題が起きる前に最適なアドバイスができるような存在になりたいですね。

（Interviewer：中井宏二
Photo：髙廣信之）